



▲紅葉の阿仁路を歩いて心身をリフレッシュした「内陸線沿線紅葉ウォーキング」

内陸沿線紅葉ウォーキング(秋田内陸縦貫鉄道利用促進協議会主催)が、10月19日、阿仁地区で行われ、約140人が参加し、沿線の紅葉を楽しみながら心地よい汗を流しました。

この日は、秋晴れで絶好のウォーキング日和となり、参加者らは紅葉がピークを迎えた「あにマタギロード」を自分の体力に合わせて、それぞれのペースでウォーキングを楽しみ、心身のリフレッシュを図りました。

また、コースは内陸線の線路と並行している区間も多くあり、時折通過する電車を見ながら、雄大な自然の中を走る内陸線の必要性を再認識し、今後も利活用を図っていくことを確認しました。

心も体もリフレッシュ

～内陸沿線紅葉ウォーキング



▲陶芸愛好者や多くの市民らが訪れた、第4回北秋田市作陶展

北秋田市陶芸協会主催の第4回作陶展が10月18・19日の2日間、阿仁ふるさと文化センターで開催され、陶芸愛好者や多くの市民が訪れました。

作陶展は、作陶技術の向上と会員の親睦交流を目的に開催されており、今年は、たかのす陶芸教室、陶芸ひまわりの会、森吉陶芸同好会、阿仁陶芸同好会の会員39人による力作230点が出品されました。

展示作品は花器や茶碗、皿や人形などで、どの作品も工夫を凝らし丹念に作り上げられており、訪れた人たちは一点ずつ足を止め、「土・釉・焼き」が作り上げた焼きものの魅力をじっくり鑑賞していました。

土の造形美を鑑賞

～第4回北秋田市作陶展



▲「大きく育ってね」話しかけながらウメモドキを植える園児ら

第59回全国植樹祭開催記念北秋田市植樹祭が10月10日、米代児童公園で開かれ、関係者と市内の園児と一緒にウメモドキなど6本の苗木を植樹しました。

岸部市長が、「木は空気をきれいにし、水を蓄えてくれる。植えた木がどんどん大きくなるように、皆さんも元気に大きく育って」と園児らに語りかけるようにあいさつしました。

記念植樹では、岸部市長ら関係者がナナカマドとヤマモミジの苗木1本づつを、保育園児が記念標柱の脇にウメモドキの苗木2本づつを公園入口付近に植樹。園児らは、用意された移植ペラを使い、苗木に「大きく育ってね」と話しかけながら、いねいに土をかけて植えました。

全国植樹祭の開催を後世に

～北秋田市植樹祭園児らが記念植樹

美しい歌声で聴衆を魅了

～「第22回もりよし合唱祭」



▲美しい歌声と個性豊かな発表で聴衆を魅了した「第22回もりよし合唱祭」

第22回もりよし合唱祭が10月18日、森吉コミュニティセンターで開かれ、市内外から9団体が出演し、美しい歌声を披露しました。

合唱祭は、参加3団体の合同合唱、地上の星で幕を開けた後、北秋田市をはじめ男鹿市、鹿角市、上小阿仁村から参加した9団体が登場しました。子ども達のかわいい歌声やパフォーマンス付きのお母さんコーラス、成田為三作品の合唱、さらにはハーモニカの温かい音色など個性豊かな発表に聴衆も大きな拍手を送っていました。

最後は合唱祭のメインである全員合唱。聴衆や参加者ら約250人による「浜辺の歌」「秋田県民歌」が声高らかに響きわたりました。

心地よい汗を流し健康を考える

～健康スポーツフェスタ2008



▲梅田講師の指導で参加者全員が「すこやかココから体操」でリフレッシュ

北秋田市健康・スポーツフェスタ2008が10月12日、鷹巣体育館で開催され、約300人の市民が健康体操やさわやかウォーキングで心地よい汗を流し健康づくりへの理解を深めました。

地域や企業内での健康づくり事業を行っている梅田陽子氏による「すこやかココから体操」の講演が行われ、参加者が肩こりをほぐす運動など実技指導を受けながら体を動かしリフレッシュしました。また、体育館周辺でウォーキングも行われ、参加者は4キロのコースをさつそうと歩いていました。

会場内には、健康づくりコーナーなどが設けられ、来場者は体力測定や保健師による健康指導で自分の体調をチェックしていました。

少子化・晩婚化を笑いの舞台に

～たかのす劇団第17回定期公演



▲地元劇団ならではの掛け合いで、観客を楽しませた「たかのす劇団定期公演」

市内を拠点に活動するたかのす劇団(三澤守一代表)の第17回定期公演「みあつて、見合つて」が10月11日、北秋田市文化会館で開かれ、約300人の観衆が非婚化など地方の社会問題を笑いで描いたステージを楽しみました。

今回は、少子化や晩婚化など現代特有の社会問題がテーマ。結婚しようとしていない息子・娘の見合いを「カルガモ親交会」なる団体を通じてなんとか成功させようとする両親の姿などを、家族愛とユーモアをたっぷり交えながら描きます。

セリフはすべて「北秋田弁」で、その掛け合いが真剣なほどおもしろおかしく、客席では随所で笑い声が沸き起こっていました。